

諏訪の景気動向

平成21年 8月

(平成21年7月末 D・I調査)

平成21年8月19日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 21 年 7 月末）

「平成 21 年 7 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 187 社のご協力を得て行った 7 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の業況判断 D I は 2.1 と前回調査時（平成 21 年 4 月末、以下同）の $\Delta 47.2$ から 49.3 ポイントの大幅改善となり平成 19 年 7 月以来 8 期振りにプラスに転じた。今回調査では、業況が「好転」したとする企業が 24.1%（前回調査時 8.3%）、「悪化」したとする企業が 21.9%（前回調査時 55.4%）で「好転」企業の割合が増加し、「悪化」企業の割合が減少したが、依然として「横這」とする企業割合が 54.0%と最も多いことから、底打ちはしたものの弱含みの横這い状況が続いている。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「悪化」とする企業が 19.1%と前回調査時の 56.3%から減少し、「好転」とする企業が前回調査時の 8.5%から 26.5%へと増加したことから、同 D I は 7.4 と前回調査時の $\Delta 47.9$ から 55.3 ポイントの大幅な改善となりプラスに転じた。受注状況 D I は「3ヶ月前比」では「増加」企業が 36.5%、「不変」企業が 42.3%で同 D I は 15.3 と、前回調査時の $\Delta 46.5$ から 61.8 ポイントの大幅な改善となった。また、「3ヶ月後」の受注予想では「減少」とする企業が 17.5%あるものの、「増加」とする企業が 23.4%あることから同 D I は 5.8 と前回調査時の $\Delta 5.6$ から 11.4 ポイント改善しプラスに転じた。規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「1~29 人企業」 $\Delta 3.0$ 、「30~99 人企業」12.5、「100 人以上企業」24.1 と全ての規模で前回調査時より大幅に改善しているものの、規模により景況感に差がみられる。なかでも、「100 人以上企業」では「好転」企業が 37.9%あり、「悪化」企業が前回調査時の 50.0%から本調査では 13.8%へ減少しており、同 D I は前回調査時の $\Delta 46.2$ から大幅に改善した。

今回の調査では、業種や規模により区々であるものの総体での各 D I 値は大幅に改善している。しかし、これは昨秋以降の景況の急減速の状況から在庫調整等の進展により幾分生産・受注が戻り始めたためであり、現在は底打ち感がみられるものの本格的な回復には至っていない底這いの状況となっている。

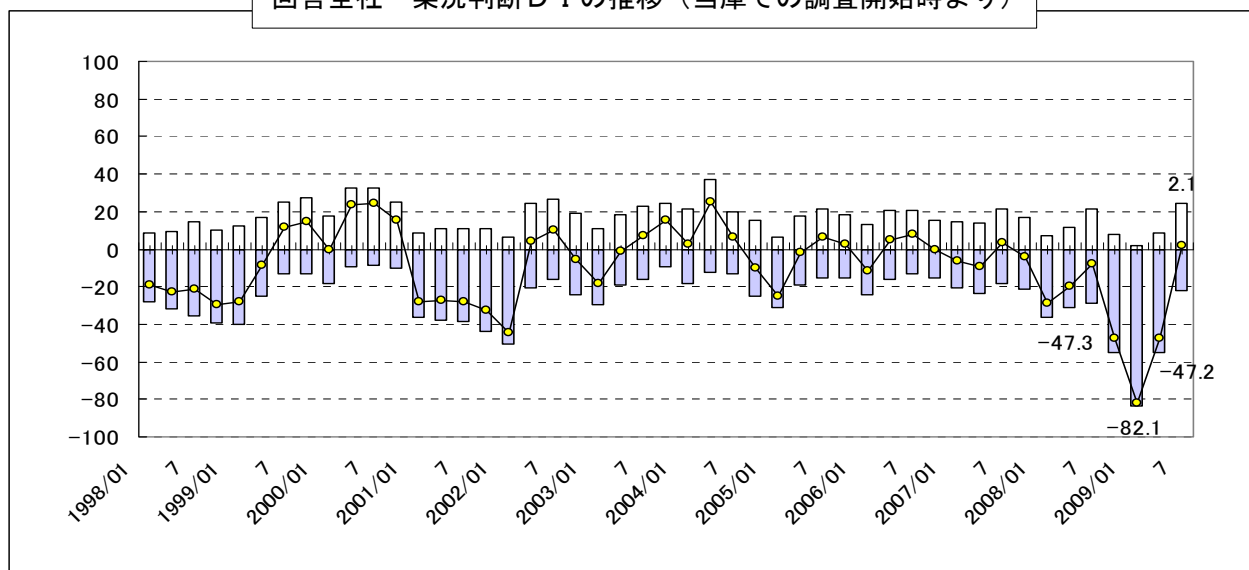
商業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断 D I は「横這」とする企業が 58.3%を占め、「悪化」とする企業が前回調査時の 66.7%から 41.7%へ減少したことから同 D I は $\Delta 41.7$ と前回調査時から 16.6 ポイント改善した。ただし、客単価 D I では「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヶ月後の予想」のいずれでも「好転」とする企業はなく、消費者の生活防衛意識による買上点数の減少と店舗間競争による商品単価の下落が続いている。諏訪地方の 7 月の天候は例年より早い 14 日に梅雨明けしたものの曇りや雨のぐずついた天気が多く、食料品ではアイスクリームや飲料、スイカなどの盛夏食材の売上は前年を下回り、ホームセンターではバーベキュー用品等の夏季商材の動きは低調であった。また、家電製品でも冷夏の影響からエアコンの売れ行きは鈍かった。

観光・サービス業は、「前年同期比」の業況判断は、「悪化」とするホテル旅館が 65.2%を占めるものの「横這」とする企業割合が増加したことから、業況判断D Iは△60.9と前回調査時の△66.7から幾分改善した。ただし、客単価D Iでは「3ヶ月前比」及び「前年同月比」で「好転」した企業はなく、特に「前年同月比」では「悪化」とする企業が 73.9%で同D Iは△73.9と落ち込んでいる。また、諏訪地域の 7 月の入り込み客数や宿泊者数は、雨や曇りの不順な天候の影響から高原の観光地を中心に影響を受け、前年を割り込んだ施設が多い。なお、諏訪大社の 7 月の参拝客数（上社・下社合算）は約 50 千人と、修学旅行等の団体客は堅調であったが、不順な天候から個人の参拝客が幾分減少し前年同月比△1 千人の減少となった。

建設業は、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業 6.7%、「悪化」企業 33.3%で同D Iは△26.7と前回調査時の△33.3から小幅な改善となった。また、「3ヶ月前比」や「前年同期比」では、業況や受注状況が「好転」したとする企業が幾分あるものの、「3ヶ月後の予想」では「好転」を見込む企業はなく先行きは慎重な見方となっている。建築工事は、諏訪地方の平成 21 年 6 月の新設住宅着工件数は 167 戸で、「分譲」が昨年同月の 4 戸から 62 戸へ増加したことから総体でも昨年同月の 139 戸から+28 戸（+20.1%）増加した。しかし、平成 21 年 4 月～6 月の累計着工戸数は 330 戸で前年同期の 430 戸に比べ△100 戸（△23.2%）減少しており、個人の住宅建築意欲は弱いまま推移している。

雇用状況は、平成 21 年 6 月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を△0.76 ポイント下回り 0.36 倍と対前年比で 21 ヶ月連続して低下し、長野県の同倍率 0.39 倍及び全国の同倍率 0.43 倍を引き続き下回った。ただし、対前月比では昨年 9 月以降続いていた前月割れがとまり、5 月の同倍率 0.35 倍を若干であるが上回った。なお、諏訪地域の 6 月の新規求人（全数）は 890 人で前年同月比△427 人（△32.4%）の減少、新規求職者数は 944 人で前年同月比+170 人（+22.0%）の増加となっている。また、1 件 10 人以上の人員整理は 1 件 36 人、事業主都合による雇用保険資格喪失者は 192 人と前年同月より 136 人増加、前月より 26 人の増加となった。

回答全社 業況判断D Iの推移（当庫での調査開始時より）



業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（187社）の「3ヶ月前比」の業況判断は、「好転」企業が24.1%、「横這」企業が54.0%、「悪化」企業が21.9%と、前回調査時より「好転」とする企業割合が増加し「悪化」とする企業割合が減少したことから、業況判断D Iは2.1と前回調査時（平成21年4月末、以下同）の△47.2から49.3ポイントの大幅改善となり平成19年7月以来8期振りにプラスに転じた。

製造業の業況判断D Iは、「悪化」とする企業が19.1%と前回調査時の56.3%から減少し、「好転」とする企業が前回調査時の8.5%から26.5%へと増加したことから、同D Iは前回調査時の△47.9から55.3ポイント大幅に改善し7.4とプラスに転じた。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iは△11.8と観光業で季節的要因からD I値が回復したことにより前回調査時の△45.1から33.3ポイント回復しているものの、商業は同D I △41.7、建設業は同D I △26.7とマイナス基調が続いている。

産業別業況表

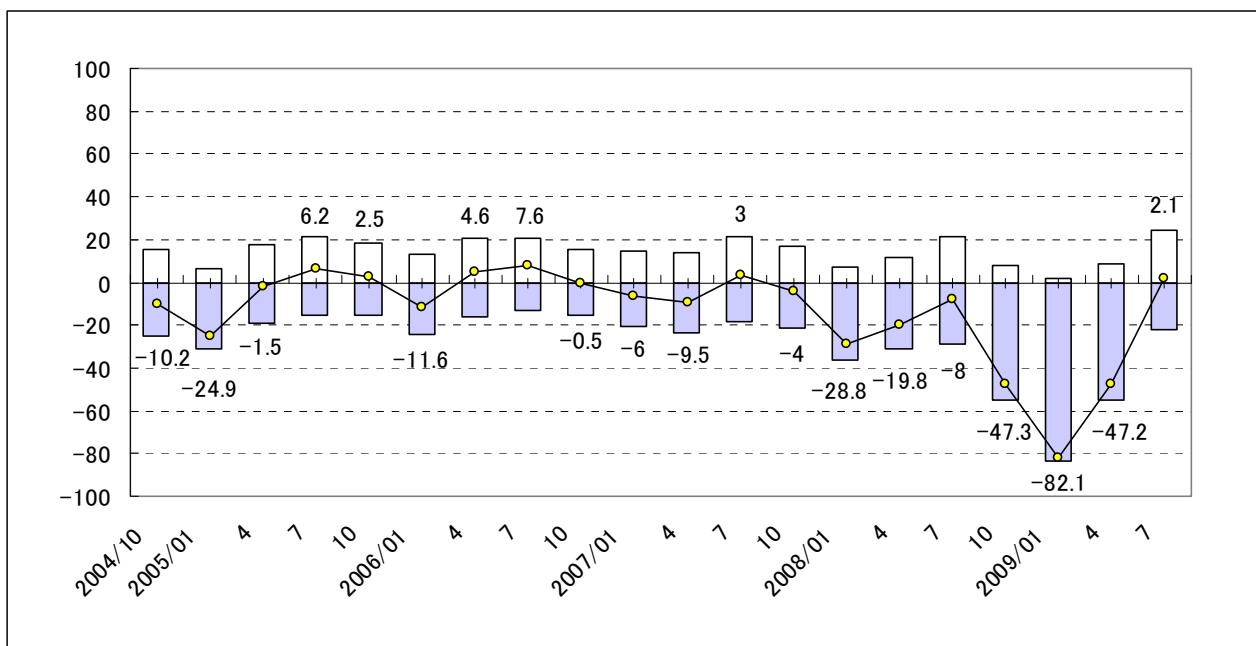
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	187	24.1	54	21.9	2.1	189	4.8	12.7	82.5	-77.8	186	15.1	65.6	19.4	-4.3
製造業	136	26.5	54.4	19.1	7.4	139	2.9	6.5	90.6	-87.8	137	17.5	66.4	16.1	1.5
非製造業	51	17.6	52.9	29.4	-11.8	50	10	30	60	-50	49	8.2	63.3	28.6	-20.4
商業(大型店)	12	0	58.3	41.7	-41.7	12	16.7	16.7	66.7	-50	12	0	66.7	33.3	-33.3
建設業	15	6.7	60	33.3	-26.7	15	13.3	40	46.7	-33.3	14	0	71.4	28.6	-28.6
観光・サービス	24	33.3	45.8	20.8	12.5	23	4.3	30.4	65.2	-60.9	23	17.4	56.5	26.1	-8.7

自社業況判断D Iの推移

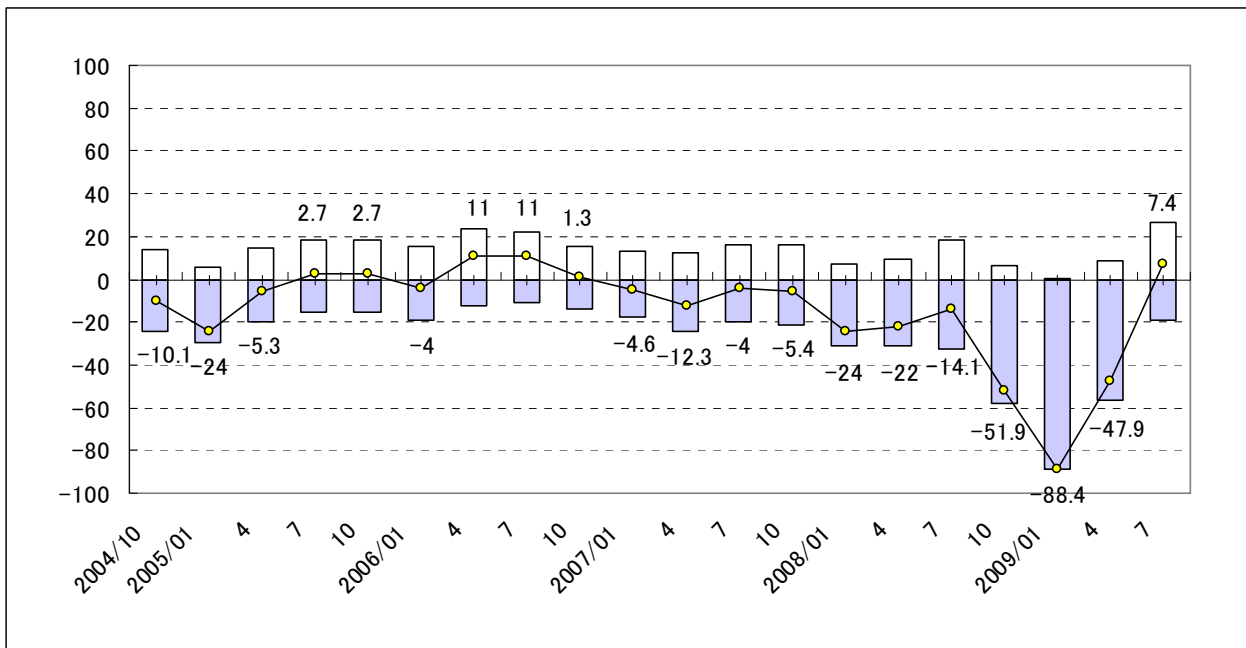
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



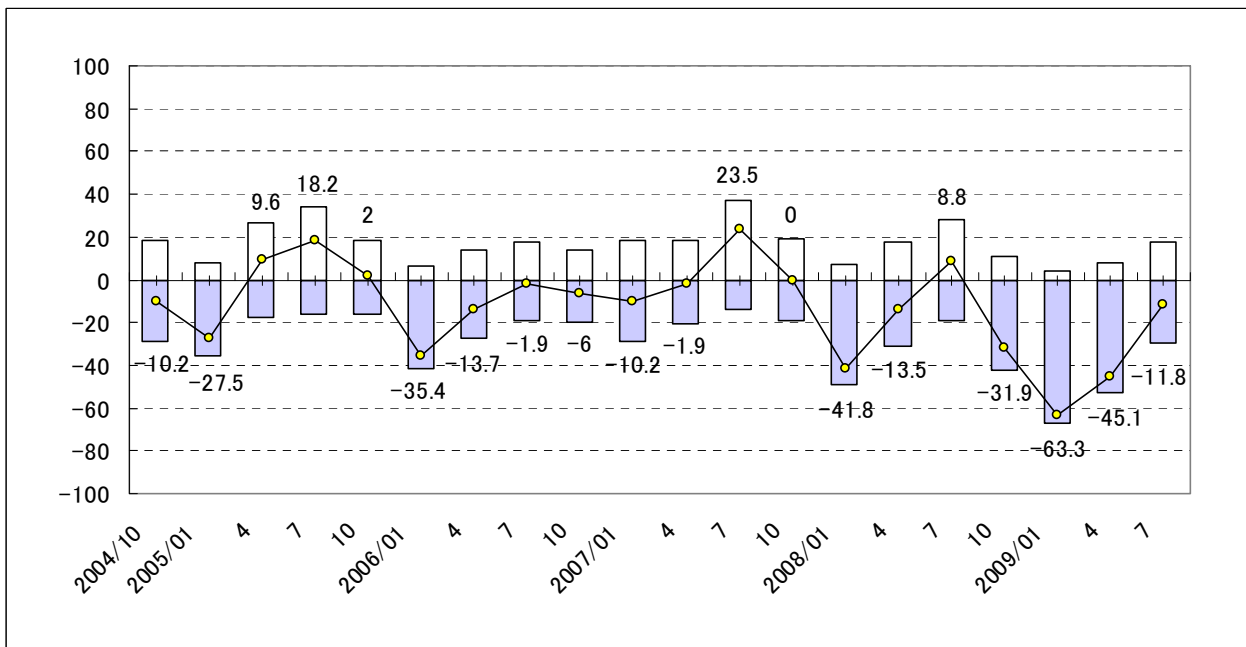
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べて業況判断D Iは、「悪化」とする企業が19.1%と前回調査時の56.3%から減少し、「好転」とする企業が前回調査時の8.5%から26.5%へと増加したことから、同D Iは7.4と前回調査時の△47.9から55.3ポイントの大幅改善となりプラスに転じた。また、「3ヵ月後」の業況予想D Iも1.5と前回調査時の△7.0からプラスに転じたものの、「横這」を見込む企業が66.4%を占めるなど慎重な見方は崩していない。

「3ヶ月前」と比べ収益性が「横這」とする企業が56.5%、「悪化」した企業が34.8%で同D Iは△26.1と前回調査時の△55.6からは回復しているものの厳しい状況で推移している。また、「3ヵ月後」の収益予想D Iは「100人以上企業」では「好転」を見込む企業が27.6%あり同D Iは13.8と前回調査時の△3.8からプラスに転じたが、「1人～29人企業」では「好転」を見込む企業は1.5%しかなく同D Iも△26.9とマイナスのままの推移となっている。

受注状況D Iは「前年同期比」では90.6%の企業が「減少」として、同D Iは△87.7と大幅なマイナスとなっているものの、「3ヶ月前比」では「増加」企業が36.5%、「不変」企業が42.3%あり同D Iは15.3と、前回調査時の△46.5から61.8ポイントの大幅な改善となった。また、業種別の「3ヵ月後」の受注予想D Iは、輸送用機械の35.7%の企業で「増加」を見込み同D Iは35.7となっているものの、精密機械では30.8%の企業で「減少」を見込み同D Iは△23.1となるなど業種により今後の見方が異なっている。

ヒアリング調査では、地域製造業の業況は業種により区々であるが概ね2月～4月には下げ止まり、現在は底打ちしているものの、小規模企業では世界経済の動向や大手・中堅企業の内製化の進展等から今後の受注状況を危惧している企業が多い。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	136	26.5	54.4	19.1	7.4	139	2.9	6.5	90.6	-87.8	137	17.5	66.4	16.1	1.5	
規模	1～29人	67	22.4	52.2	25.4	-3	68	2.9	10.3	86.8	-83.8	66	12.1	69.7	18.2	-6.1
	30～99人	40	25	62.5	12.5	12.5	42	2.4	0	97.6	-95.2	42	16.7	64.3	19	-2.4
	100人～	29	37.9	48.3	13.8	24.1	29	3.4	6.9	89.7	-86.2	29	31	62.1	6.9	24.1
分類	金属製品製造業	18	61.1	33.3	5.6	55.6	18	0	5.6	94.4	-94.4	18	0	77.8	22.2	-22.2
	一般機械器具製造業	36	19.4	52.8	27.8	-8.3	37	0	10.8	89.2	-89.2	36	19.4	63.9	16.7	2.8
	電気機械器具製造業	28	25	53.6	21.4	3.6	29	3.4	6.9	89.7	-86.2	29	27.6	65.5	6.9	20.7
	輸送用機械器具製造業	14	35.7	64.3	0	35.7	14	7.1	0	92.9	-85.7	14	28.6	64.3	7.1	21.4
	精密機械器具製造業	13	30.8	53.8	15.4	15.4	13	0	0	100	-100	13	7.7	61.5	30.8	-23.1

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前比」の業況判断D Iは61.1%の企業で「好転」したとして、同D I 55.6と前回調査時の△33.3から大幅な改善となり5業種のなかで最も高い数値となっている。ただし、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは5業種の中で唯一「好転」を見込む企業はなく、「横這」とする企業が77.8%を占めており、同D Iは△22.2と弱含みの横這い状況を予想している。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△8.3と前回調査時の△53.8より大幅に改善したものの、「悪化」したとする企業が27.8%と5業種のなかで最も多く、同D Iは5業種のなかで唯一マイナスのまま推移している。また、「3ヶ月後」の業況予想では19.4%の企業で「好転」を見込み、同D Iは2.8とプラスに転じたものの低水準に留まっている。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは3.6と前回調査時の△64.3から大幅に改善しプラスに転じたものの、「悪化」企業も21.4%あるなど企業により景況感が分かれている。「3ヶ月後」の業況予想D Iでは、「悪化」するとみる企業は6.9%と5業種のなかで最も少なく、同D Iは20.7と下げ止まり感がみられる。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは前回調査まで2期連続で「好転」企業がなかったが、今回調査では「好転」したとする企業が35.7%あり同D Iは前回調査時の△57.1から35.7へと大幅にプラスに転じた。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「横這」企業が64.3%で最も多いものの、「好転」企業が28.6%あり同D Iは21.4と5業種の中で最も高い数値となっている。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業が30.8%あることから前回調査時の△25.0から15.4へとプラスに転じた。ただし、「前年同期比」の業況判断D Iでは、全企業が「悪化」として同D Iは△100.0、また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは30.8%の企業が「悪化」を見込み同D Iは△23.1と5業種のなかで最も厳しい予想となっている。

②小分類、他の製造業

小分類では、プレス加工の「3ヶ月前比」の業況判断で「増加」とする企業割合が62.5%と高水準になっており同D Iは62.5となっている。また、光学機械器具の「3ヶ月前比」の業況判断でも「増加」とする企業が57.1%となっており、同D Iは42.9へと前回調査時からプラスに転じた。

また、電気メッキの「3ヶ月前比」業況判断D Iは50.0と高水準であるものの、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは更なる「好転」を見込む企業はなく同D Iは△33.3と業況の波が大きくなっている。

③規模別業況

製造業の規模別の「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは、「1～29人企業」△3.0、「30～99人企業」12.5、「100人以上企業」24.1と全ての規模で前回調査時より大幅に改善しているものの、規模により景況感に差がみられる。なかでも、「100人以上企業」では「好転」企業が37.9%あり、「悪化」企業が前回調査時の50.0%から本調査では13.8%へ減少しており、同DIは前回調査時の△46.2から大幅に改善した。また、「3ヶ月後」の業況予想DIでも、「100人以上企業」では「好転」とする企業が31.0%あり同DIは24.1とさらなる改善を見込んでいる。

④受注状況DI（規模別、業種別）

製造業全社の受注状況DIは「前年同期比」では90.6%の企業が「減少」として、同DIは△87.7と大幅なマイナスとなっているものの、「3ヶ月前比」では「増加」企業が36.5%、「不変」企業が42.3%あり同DIは15.3と、前回調査時の△46.5から61.8ポイントの大幅な改善となった。また、「3ヶ月後」の予想では「減少」とする企業が17.5%あるものの、「増加」とする企業が23.4%あることから同DIは5.8と前回調査時の△5.6から11.4ポイントの改善しプラスに転じた。

規模別の受注状況DIは、全ての規模の企業で「3ヶ月前比」の同DIは大きく改善し、なかでも「100人以上企業」では「増加」企業が48.3%あり同DIは前回調査時の△46.2から77.2ポイント回復し31.0とプラスに転じた。また、「3ヶ月後」の予想では「100人以上企業」の41.4%が「増加」を見込み同DIは37.9と高水準になっているものの、他の規模ではマイナスのまま推移している。

業種別では、主要5業種の「3ヶ月前比」受注状況DIは金属製品の77.8%、輸送用機械の57.1%をはじめ全業種で「増加」企業が増えたことから、同DIも全業種でマイナスを脱した。また、「3ヶ月後」の受注予想DIは、輸送用機械では「増加」企業が35.7%あり同DIは35.7と前回調査時の21.4から引き続き改善しているが、精密機械の30.8%と金属製品の22.2%の企業が「減少」を予想しており、この2業種は前回調査時から一転しDI値はマイナスに転じた。

業種別・規模別受注状況表

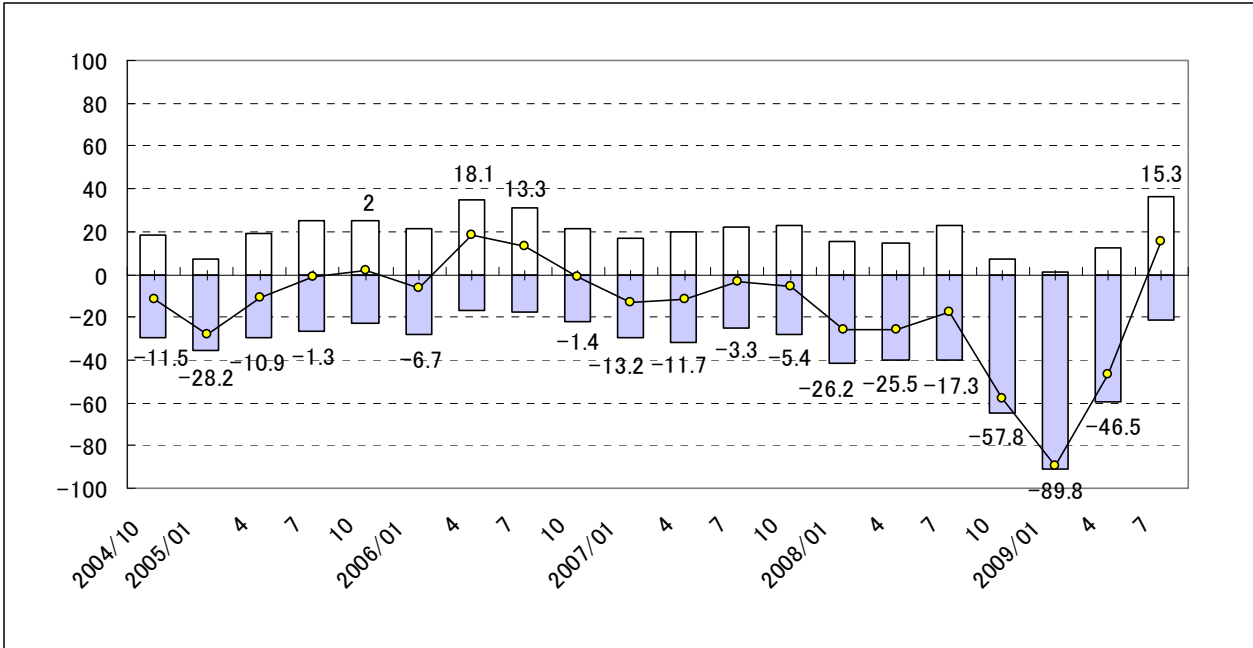
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	137	36.5	42.3	21.2	15.3	138	2.9	6.5	90.6	-87.7	137	23.4	59.1	17.5	5.8	
規模	1～29人	67	35.8	40.3	23.9	11.9	67	3	11.9	85.1	-82.1	66	18.2	60.6	21.2	-3
	30～99人	41	29.3	51.2	19.5	9.8	42	2.4	2.4	95.2	-92.9	42	19	59.5	21.4	-2.4
	100人～	29	48.3	34.5	17.2	31	29	3.4	0	96.6	-93.1	29	41.4	55.2	3.4	37.9
分類	金属製品製造業	18	77.8	11.1	11.1	66.7	18	0	0	100	-100	18	16.7	61.1	22.2	-5.6
	一般機械器具製造業	36	30.6	44.4	25	5.6	36	0	11.1	88.9	-88.9	35	25.7	54.3	20	5.7
	電気機械器具製造業	29	27.6	44.8	27.6	0	29	3.4	6.9	89.7	-86.2	29	31	58.6	10.3	20.7
	輸送用機械器具製造業	14	57.1	42.9	0	57.1	14	7.1	0	92.9	-85.7	14	35.7	64.3	0	35.7
	精密機械器具製造業	13	30.8	53.8	15.4	15.4	13	0	0	100	-100	13	7.7	61.5	30.8	-23.1

製造業の受注状況D Iの推移

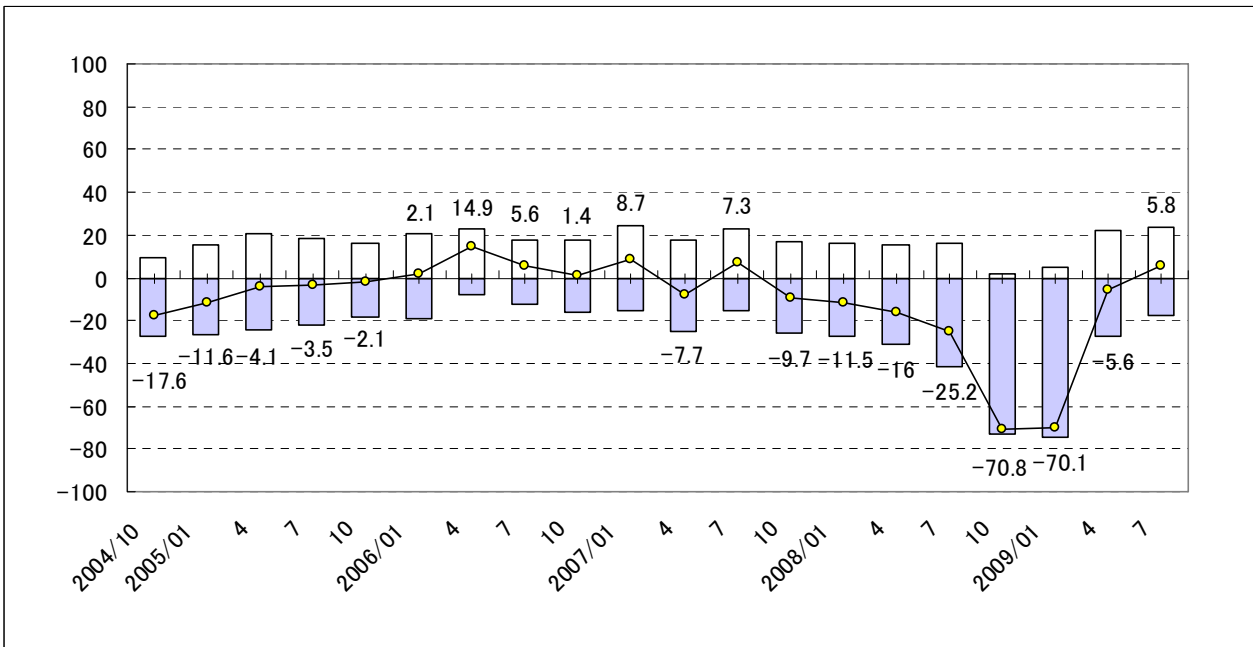
●全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-4



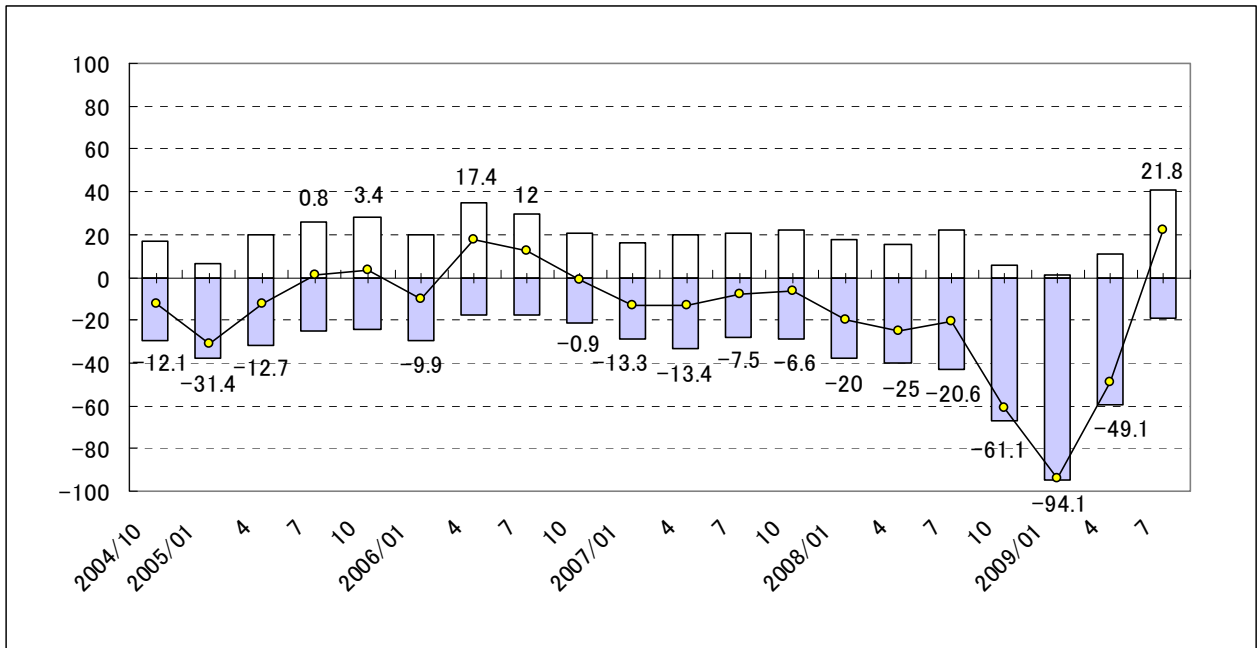
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフ-5



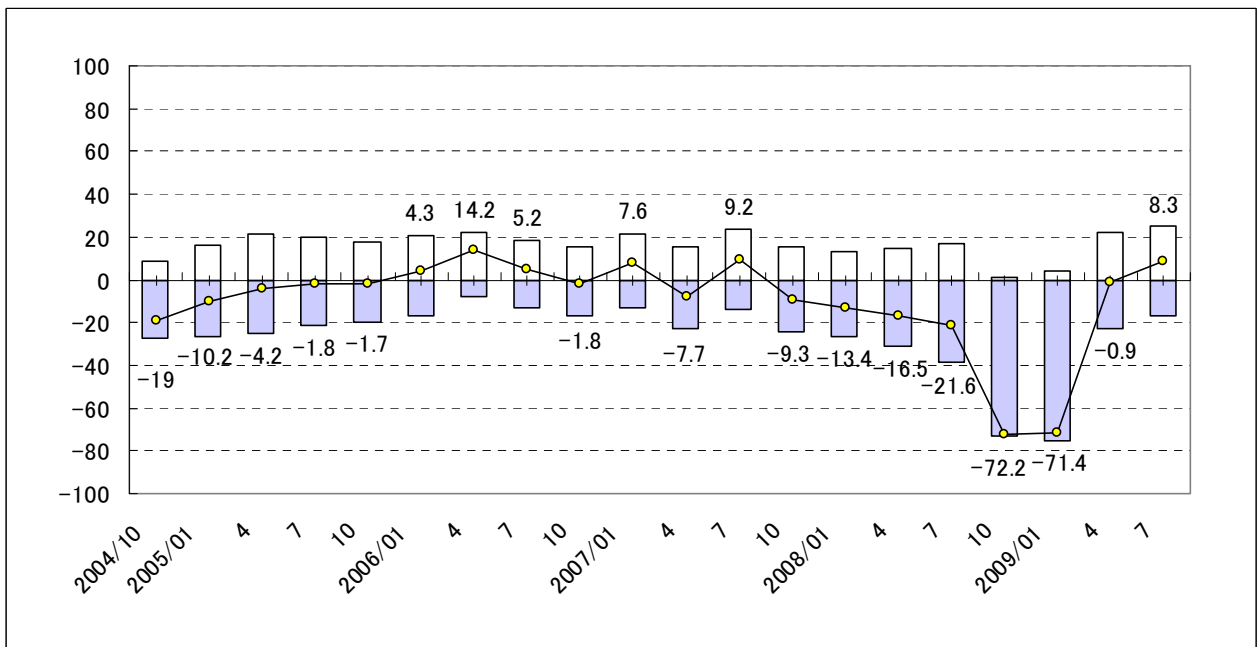
●主要 5 業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要 5 業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の7月の天候は例年より早い14日に梅雨明けしたものの、曇りや雨のぐずついた天気が多い月であった。この不順な天候により、夏物衣料や飲料、スイカ等の盛夏商材の売上は低迷した。

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「横這」とする企業が58.3%を占め、「悪化」とする企業が前回調査時の66.7%から41.7%へ減少したことから同D Iは△41.7と前回調査時から16.6ポイント改善した。ただし、客単価D Iでは「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヵ月後の予想」のいずれでも「好転」とする企業はなく、消費者の生活防衛意識による買上点数の減少と店舗間競争による商品単価の下落が続いている。

- 食料品 不順な天候からアイスクリームや飲料、スイカなどの盛夏食材の売上は前年を下回った。また、長雨や低温の影響から野菜の価格が上昇している。
- 衣料品 市町村のプレミアム商品券の効果により売上を維持したとする店舗があるものの、夏物衣料の不振から総体の売れ行きは引き続き低調である。
- 自動車 諏訪地方の7月の車庫証明件数（軽自動車除く）は1,016台で前年同月比△129台（△11.3%）の減少であるが、エコカーに対する減税や購入補助金の効果により下げ止まっているという声がかかる。
- ホームセンター 悪天候の影響からバーベキュー用品などの夏季商材の動きは低調となっている。
- 大型家電店 薄型TVの動きは比較的堅調であるが冷夏の影響によりエアコンの動きは鈍い。

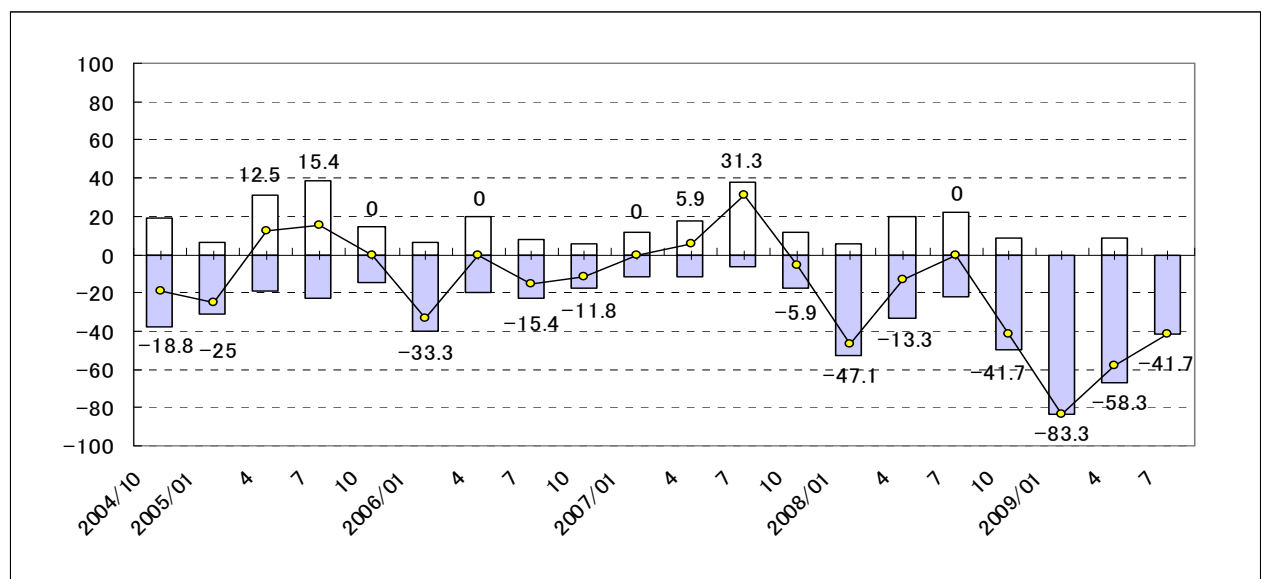
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	12	0	58.3	41.7	-41.7	12	16.7	16.7	66.7	-50	12	0	66.7	33.3	-33.3
客単価	12	0	33.3	66.7	-66.7	12	0	25	75	-75	12	0	58.3	41.7	-41.7
来店客数	12	16.7	50	33.3	-16.7	12	8.3	25	66.7	-58.3	12	8.3	58.3	33.3	-25

●商業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期比」の業況判断は、「悪化」とするホテル旅館が 65.2%を占めるものの「横這」とする企業割合が増加したことから、業況判断DIは△60.9と前回調査時の△66.7から幾分改善した。

ただし、客単価DIでは「3ヶ月前比」及び「前年同月比」で「好転」した企業はなく、特に「前年同月比」では「悪化」とする企業が 73.9%で同DIは△73.9と落ち込んでいる。

- 上諏訪温泉 総体の宿泊客数は前年同月比△10%程度の減少であるが、団体客の集客状況から前年同月で宿泊客数を増加させているホテル旅館もみられる。
- 蓼科・白樺湖・車山方面 ホテル旅館により区々であるが、宿泊客数は雨や曇りの悪天候から前年同月比で△10～20%程度減少したところが多い。
- 下諏訪温泉 総体での宿泊客数は前年並みであるも、引き続き法人関係の宴会需要の減少がみられる。
- 諏訪大社 上社・下社を合わせた7月の参拝客数は約50千人と、前年同月比△1千人の減少となった。修学旅行等の団体客は堅調であったが、不順な天候から個人の参拝客が幾分減少した。

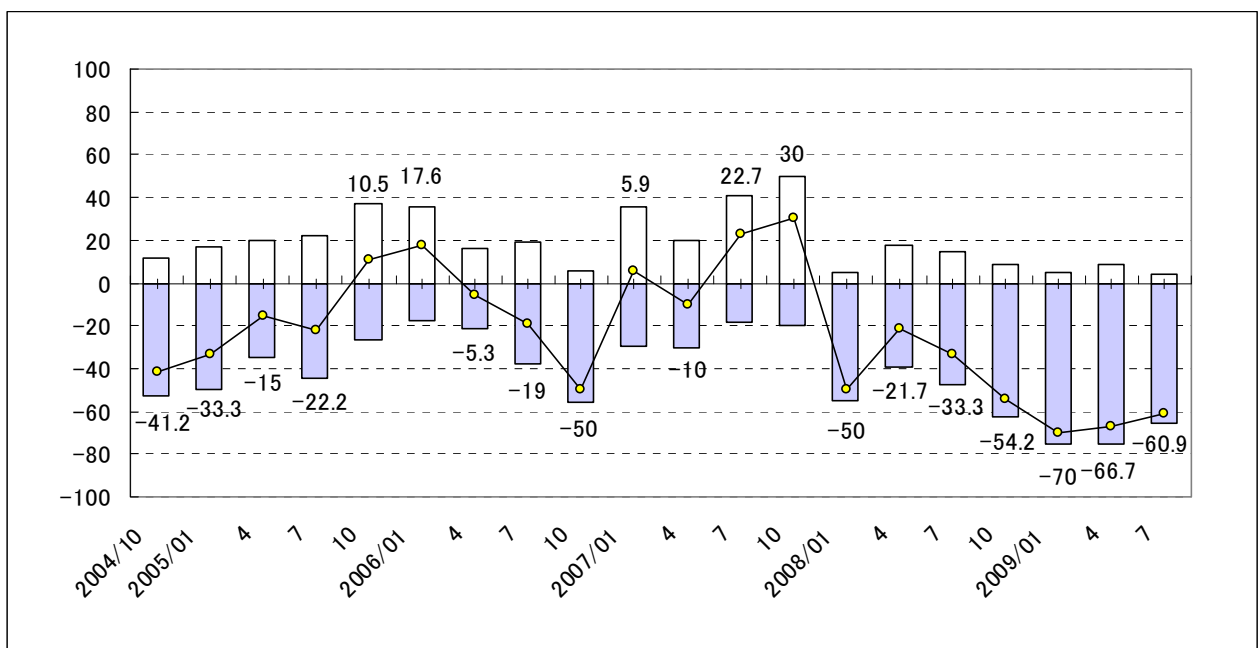
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	24	33.3	45.8	20.8	12.5	23	4.3	30.4	65.2	-60.9	23	17.4	56.5	26.1	-8.7
客単価	24	0	66.7	33.3	-33.3	23	0	26.1	73.9	-73.9	23	8.7	65.2	26.1	-17.4
宿泊客数	24	29.2	45.8	25	4.2	23	4.3	30.4	65.2	-60.9	23	17.4	52.2	30.4	-13

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業 6.7%、「悪化」企業 33.3%で同DIは△26.7と前回調査時の△33.3から小幅な改善となった。また、「3ヶ月前比」や「前年同期比」では、業況や受注状況が「好転」したとする企業が幾分あるものの、「3ヶ月後の予想」では「好転」を見込む企業はなく先行きは慎重な見方となっている。

①建築工事

諏訪地方の平成21年6月の新設住宅着工件数は167戸で、「分譲」が昨年同月の4戸から62戸へ増加したことから総体でも昨年同月の139戸から+28戸(+20.1%)増加した。しかし、平成21年4月～6月の累計着工戸数は330戸で前年同期の430戸に比べ△100戸(△23.2%)減少しており、個人の住宅建築意欲は弱いまま推移している。

②土木工事

長野県関係の平成21年7月の公共工事(地元業者受注分)は11件281百万円、平成21年度(4月～7月)の累計契約額は31件636百万円で前年同期累計比では△17件、△808百万円の減少となっている。

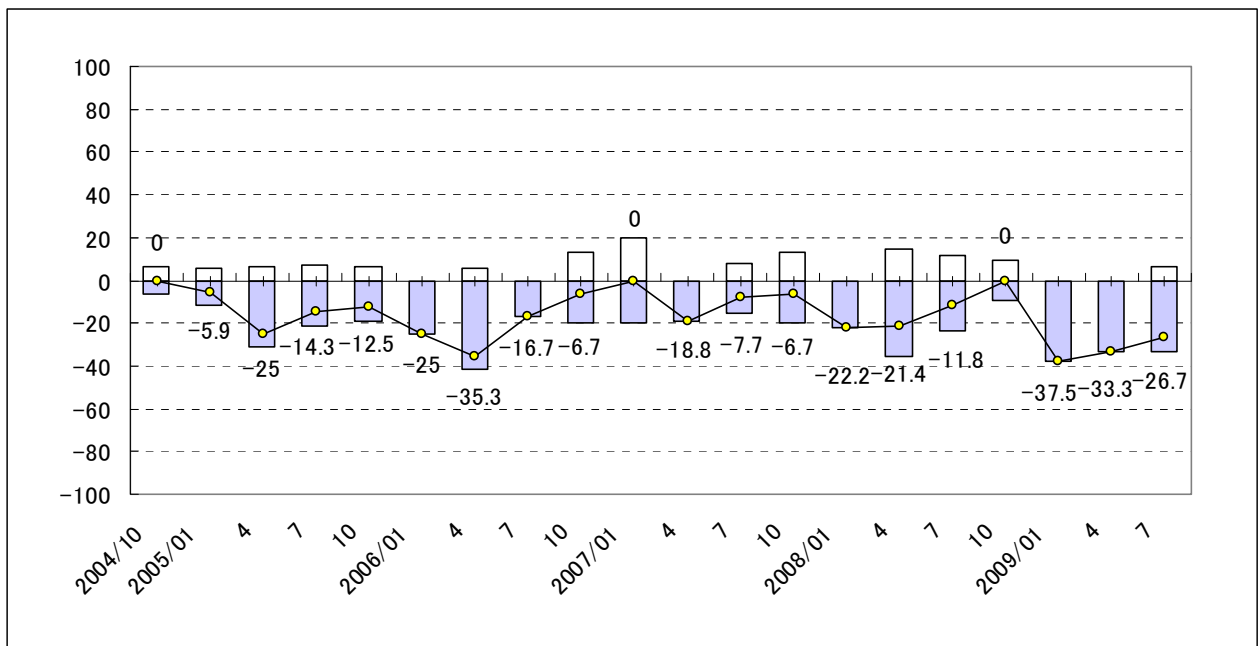
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	15	6.7	60	33.3	-26.7	15	13.3	40	46.7	-33.3	14	0	71.4	28.6	-28.6
受注状況	15	6.7	46.7	46.7	-40	15	20	20	60	-40	14	0	57.1	42.9	-42.9
外注発注量	15	13.3	46.7	40	-26.7	15	13.3	33.3	53.3	-40	14	0	57.1	42.9	-42.9

●建設業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



4. 収益性状況

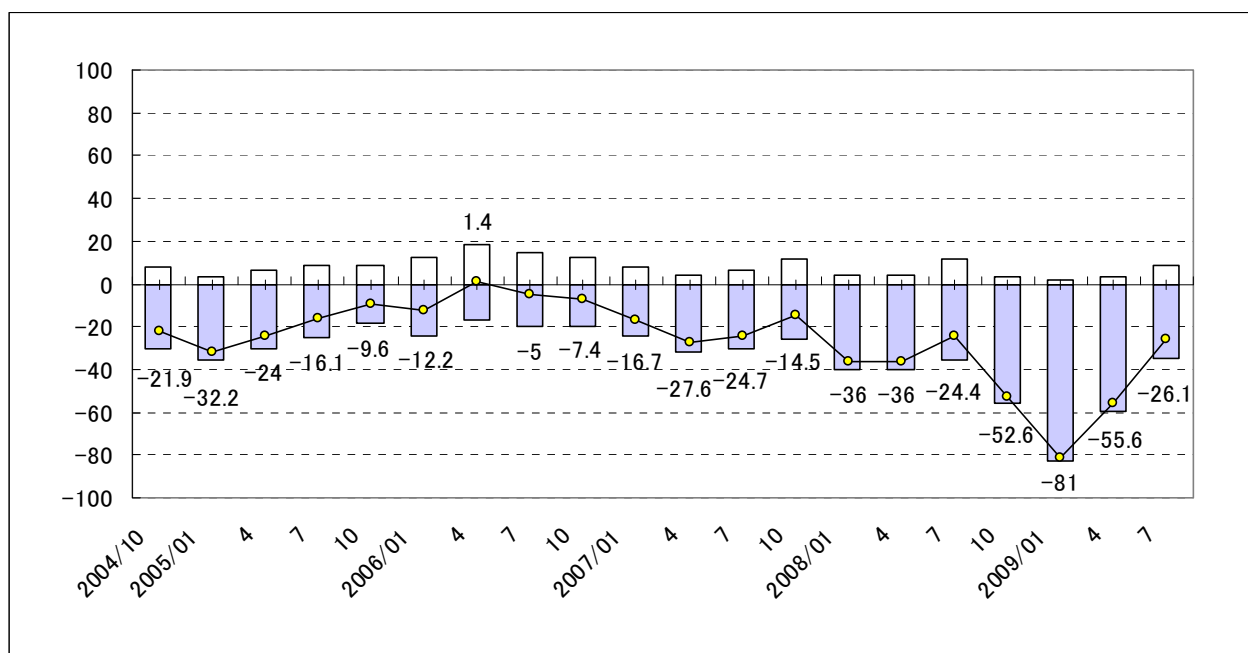
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」7.4%、「横這企業」56.6%、「悪化企業」36.0%で同D Iは△28.6と前回調査時の△52.8から24.2ポイント好転した。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「横這」とする企業が56.5%、「悪化」した企業が34.8%で同D Iは△26.1と前回調査時の△55.6からは回復しているものの厳しい状況で推移している。なお、「前年同期」と比べ収益性が「悪化」した企業は83.5%で同D Iは△80.6となっている。

非製造業の「3ヶ月前比」の収益性D Iは、前回調査時の△45.1より9.8ポイント改善し△35.3となったものの、「商業」と「建設業」では「好転」したとする企業はなく厳しい状況が続いている。

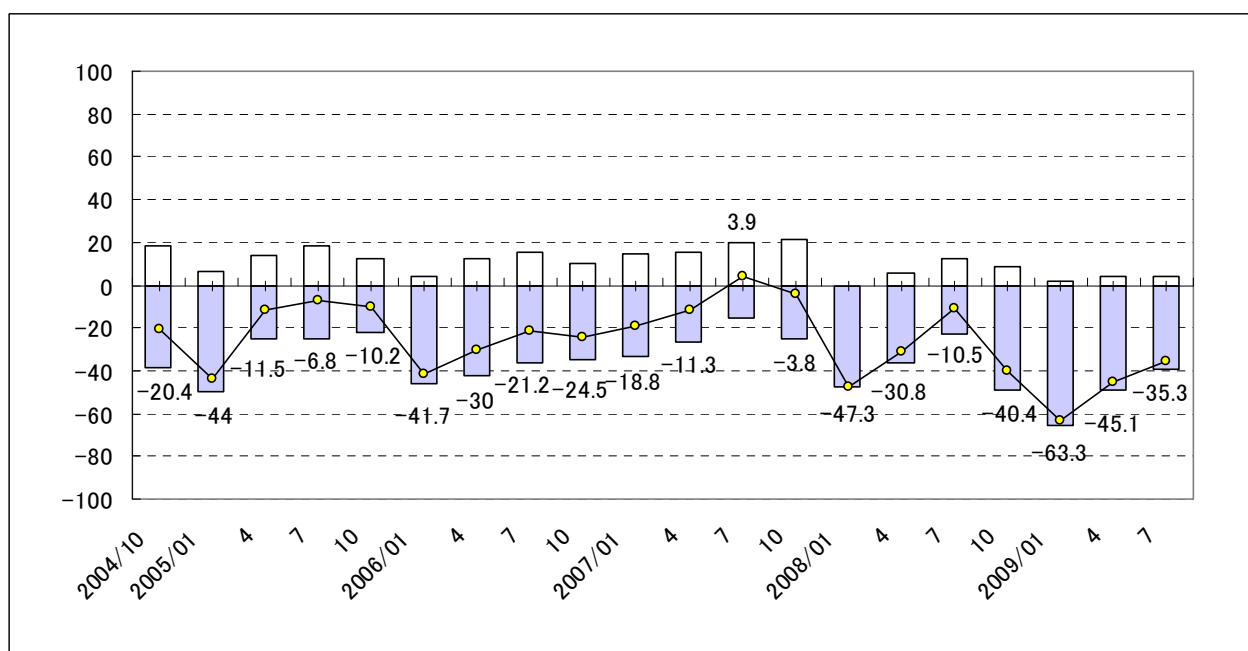
●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、資金繰り、単価引下げをあげる企業が多く、②商業は売上減少、単価引下げ、人件費、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	147	109	10	11	17
単価引下げ	63	42	4	4	13
競争激化	52	36	3	9	4
資金繰り	54	45	2	2	5
人件費	35	24	4	1	6
労働力確保	6	※6	0	0	0

※製造業の「労働力確保」では、専門性の高い人材、海外工場での人員確保等のご回答がありました。

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	諏訪公共職業安定所	0.36倍	△0.76ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	8,731枚	△2,345枚	
	金額	9,503百万円	△4,809百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	3枚	△1枚
	金額	745千円	△2,892千円	
電力使用量【7月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	42,398 MWh	△1.3%	
	高压電力計	96,633 MWh	△14.5%	
	合計	139,031 MWh	△10.9%	
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		1,016件	△11.3%	
新設住宅着工件数【H21.4~H21.6】(諏訪内)		330件	△23.2%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成21年7月末
- 調査内容 「平成21年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約120社)
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 187企業
- 回答率 65.8%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	215	20	21	28	284
回答数	136	12	15	24	187